

# 第3学年 総合的な学習の時間指導案

日時 平成25年7月18(木) 6校時  
指導者 仙台市立荒浜小学校  
教諭 小林 三佳  
場所 3年1組教室

## 1 単元名「災害に備えて」

## 2 単元の目標

### ○みつめる力

視覚的に捉えやすい教材を使うことによって、家の中で地震が起こったときを意識し、家族の一員として自分が災害に備えてできることを考えようとする。

### ○かかわる力

お互いの考えの良さに気づき、より安全に過ごすための防災について考えようとする。

## 3 指導に当たって

### (1) 児童の実態 省略

### (2) 教材について

「総合的な学習の時間」のための防災教材として、卒業論文の一巻として作成された「地しん防災ブック」(日本女子大学家政学部住居学科石川孝重研究室の平成20年度生松原未佳さん)から、「ママと優太の部屋」部分を教材として活用する。児童にも親しみやすく視覚的に捉えやすい教材であり、自分の家での危険について課題意識を持つことができると考える。

家庭で過ごす時間が増える夏休み前に、家庭での防災について学び、自分のいのちを自分で守ろうとする意識を深め、落ち着いて対処できるようにさせたい。また、災害に備えて家庭で取り組めることを考え、進んで取り組ませたい。

### (3) 研究との関連

〈研究テーマ〉 自他の「いのち」を大切にしようとする子供の育成  
～防災教育を通して～

〈学年部テーマ〉 防災への備えについて知り、周囲と協力しあって対応することができる子供の育成

### ○研究の視点(上学年部)

視点① 「いのち」を大切にしたいという思いや考えを持たせるための教材の工夫

- ・児童にとって、身近で実態に即した題材を取り上げる。

視点② 「いのち」を大切にしようとして協力して行動させるための単元構想の工夫

- ・主体的に取り組ませるために、日常生活における様々な災害を意識させる場を設定する。

視点③ 防災教育カリキュラムの改善

- ・「防災教育副読本」の活用を中心とした年間計画を、実践を通して修繕・改善していく。

#### (4) 児童の実態を踏まえた指導の工夫

夏休みを迎える児童にとって、家の中で地震が起きたときの対処を考えることは、自他の「いのち」を大切にすることを高めることにつながる。学校での避難訓練なども想起させ、心のケアに配慮しながら、総合的な学習での「防災」学習への見通しを持てるようにさせたい。

#### 4 指導計画

	学習活動	育てたい力		評価と支援（方法・内容）	備考
		みつめる力	かかわる力		
課題設定	・家にいるときに地震が起きたときのイメージを持ち、地震時とその後の避難について考える。(2) (本時：1/2)	○	○	親しみやすくイメージしやすい教材を選び、心のケアにも配慮する。	
情報収集	・自宅から避難場所へのルート上の危険箇所を調べる。 (夏休みの課題)		○	家から避難場所までのルートの地図を用意する。 「保護者と一緒に避難場所までのルートを歩く」夏休みの課題について、保護者に協力を依頼する。 避難場所とそのルートにある地点の写真を撮っておく。	
まとめ	我が家の防災カードを見直し、自分の考えをまとめる。 (4)	○		それぞれの考えのよさに自信が持てるように励ます。 情報を共有し、地震災害時に自らの「いのち」を守ろうとする視野を広げられるようにする。	
振り返り	友達の発表やその感想から分かったことを伝え合う。	○	○	新たな課題を見つけられるような声掛けを行う。	

5 本時の指導

(1) ねらい 夏休みを前に、家庭での防災についての意識を高める。

(2) 指導課程 (課題設定1/2)

課程	主な学習活動	主な指導・支援(視点)
	<p>1 本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">もし、いま、じしんがおきたら？</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震のときの教室の中の危険について考える。</li> </ul>	<p>児童の様子を把握し、心のケアに配慮する。</p> <p>危険な物は何かを具体的に考えさせ、なぜそう思うか理由も言えるようにする。(視点1)</p> <p>必要に応じて、学校での避難訓練も想起させる・</p>
	<p>2 家の中の危険について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家の中にある物を確認する。</li> <li>・危険を見つけて、付箋に書く。</li> </ul> <p>3 地震後の行動を考える。</p>	<p>黒板に「ママと優太の家」の間取り図を掲示する。付箋を図に貼ることで、情報を共有させる。</p> <p>「地震がおさまるまで」「おさまってから」の観点に分けて考えを整理できるようにする。</p> <p>落ち着いて行動することの大切さにも気付けるようにする。</p>
	<p>4 学習を振り返り、自分の家での防災について調べようとする意欲を持つ。</p>	<p>学習プリントに記入させる。</p>

(3) 本時の評価

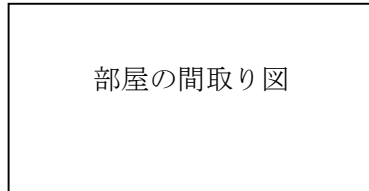
<p>具体の評価規準</p>	<p>地震の際に起こる様々な危険について、安全な行動をとるための方法を考えることができる。</p>
<p>十分満足できる状況</p>	<p>地震の際に起こる様々な危険について、安全な行動を取るための方法を考え積極的に友達に伝えたり、友達の考えからよりよい方法を考えたりすることができる。</p>
<p>Cへの手立て</p>	<p>地震の際の危険について担任の経験を話し、対処の仕方について考えられるようにする。</p>

(4) 板書計画

もし、いま、じしんがおきたら

〈きけん〉

- ・落ちてくる
- ・たおれてくる
- ・動く



①じしんがおさまるまで

- ・
- ・

②じしんがおさまってから

- ・

③ひなん場所へ